

国際日本研究学位プログラム(博士後期課程)

専門科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE000	リサーチ・プログラム開発5	2	2.0	1	春ABC	応談		国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はインターネット上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2,3,4」とは別のものでなければならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。偶数年開講。 2024年度より2年おきに開講。 02DMC01と同一。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
OBBE001	リサーチ・プログラム開発6	2	2.0	1	秋ABC	応談		国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はインターネット上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2,3,4,5」とは別のものでなくてはならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。偶数年開講。 2024年度より2年おきに開講。 02DMC02と同一。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
OBBE002	リサーチ・プログラム開発7	2	2.0	2					自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はインターネット上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2,3,4,5,6」とは別のものでなくてはならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。奇数年開講。 2024年度より2年おきに開講。 02DMC03と同一。 2024年度開講せず。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)

OBBE003	リサーチ・プログラム開発8	2	2.0	2				自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などは幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はインターネット上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2,3,4,5,6,7」とは別のものでなくてはならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。奇数年開講。  2024年度より2年おきに開講。02DMC04と同一。2024年度開講せず。要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
OBBE010	リサーチ・プログラム開発基礎3	2	1.0	1 - 3	春ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	構成教員や主指導教員(副指導を含む)の協議をふまえ、国内外学会、シンポジウム、学術会議、公開講座などの研究教育に関連する活動等を企画運営または参画することを通じて、資料調査・サーベイ等による研究能力にとどまらず、運営事務や企画調整等のマネジメントおよびコミュニケーションといった実践能力の涵養を併せて図ることを目的とする。履修者は、その活動および成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録し、活動終了後に学位プログラムリーダーへ提出する。提出された「ノート」は教育会議に諮って審査し、合格が認められた者に1.0単位を付与する。  本科目を適用できる活動は、原則として構成教員や主指導教員(副指導を含む)が学位プログラム教育会議に付議して認められた企画・活動に限るものとし、履修者はその活動の準備から終了まで積極的に参画すること。また、履修者の「ノート」は、通常10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当し、自らの研究活動に寄与する質量であることが望ましい。  なお、早期修了希望・早期修了希望以外のいずれの学生であっても、学位プログラム教育会議の審議の結果、認められれば履修することができる。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
OBBE011	リサーチ・プログラム開発基礎4	2	1.0	1 - 3	秋ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	構成教員や主指導教員(副指導を含む)の協議をふまえ、国内外学会、シンポジウム、学術会議、公開講座などの研究教育に関連する活動等を企画運営または参画することを通じて、資料調査・サーベイ等による研究能力にとどまらず、運営事務や企画調整等のマネジメントおよびコミュニケーションといった実践能力の涵養を併せて図ることを目的とする。履修者は、その活動および成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録し、活動終了後に学位プログラムリーダーへ提出する。提出された「ノート」は教育会議に諮って審査し、合格が認められた者に1.0単位を付与する。  本科目を適用できる活動は、原則として構成教員や主指導教員(副指導を含む)が学位プログラム教育会議に付議して認められた企画・活動に限るものとし、履修者はその活動の準備から終了まで積極的に参画すること。また、履修者の「ノート」は、通常10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当し、自らの研究活動に寄与する質量であることが望ましい。  なお、早期修了希望・早期修了希望以外のいずれの学生であっても、学位プログラム教育会議の審議の結果、認められれば履修することができる。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)

OBBE014	リサーチ・プログラム 特別開発3	2	1.0	1 - 3	春ABC	応談		国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	本科目は英語等外国語による優秀な学術業績の成果産出を促す目的から開講するものであり、学生は指導教員および学位プログラムリーダーに履修の意思を示し、学位プログラム教育会議において履修の適切性が審議・承認された場合において、その履修が認められる。 学生は自らの研究テーマに関して、学位プログラムリーダー、指導教員、学位プログラム代表者等の指示する教材、文献、各種資料などを広く学習しつつ、海外の関連学会・シンポジウム・学術会議・公開講座等に参加のうえ発表をおこない、その発表詳細および学習成果について総括レポートを作成する。レポートは通常10回分の講義および予復習、外国語運用能力の向上に資する程度の質と量を必要とする。 学生は総括レポートを必ず指導教員および学位プログラムリーダーに報告し、そのレポートに記載された研究の進捗状況および学習内容は学位プログラムにおいて審査される。審査の結果「可」の判断が与えられた場合、1.0単位が付与される。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。 対面(オンライン併用型)
OBBE015	リサーチ・プログラム 特別開発4	2	1.0	1 - 3	秋ABC	応談		国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	本科目は英語等外国語による優秀な学術業績の成果産出を促す目的から開講するものであり、学生は指導教員および学位プログラムリーダーに履修の意思を示し、学位プログラム教育会議において履修の適切性が審議・承認された場合において、その履修が認められる。 学生は自らの研究テーマに関して、学位プログラムリーダー、指導教員、学位プログラム代表者等の指示する教材、文献、各種資料などを広く学習しつつ、海外の関連学会・シンポジウム・学術会議・公開講座等に参加のうえ発表をおこない、その発表詳細および学習成果について総括レポートを作成する。レポートは通常10回分の講義および予復習、外国語運用能力の向上に資する程度の質と量を必要とする。 学生は総括レポートを必ず指導教員および学位プログラムリーダーに報告し、そのレポートに記載された研究の進捗状況および学習内容は学位プログラムにおいて審査される。審査の結果「可」の判断が与えられた場合、1.0単位が付与される。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。 対面(オンライン併用型)
OBBE302	コミュニケーションの 人類学1A	2	1.0	1 - 3					文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。	西暦奇数年度開講。 02DMW41と同一。 対面(オンライン併用型)
OBBE303	コミュニケーションの 人類学1B	2	1.0	1 - 3					文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。「コミュニケーションの人類学1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦奇数年度開講。 02DMW42と同一。 対面(オンライン併用型)
OBBE304	コミュニケーションの 人類学2A	2	1.0	1 - 3	春AB	木4		井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。「コミュニケーションの人類学1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 02DMW43と同一。 対面(オンライン併用型)
OBBE305	コミュニケーションの 人類学2B	2	1.0	1 - 3	秋AB	木4		井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。「コミュニケーションの人類学1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 02DMW44と同一。 対面(オンライン併用型)

OBBE306	相互行為分析研究1A	2	1.0	1 - 3				社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」において、最も重要な分析概念の一つである「行為形成(action formation)」に関連する主要文献を精読し、議論することによって正確な理解を深める。また、各論文における記述や主張が、実際の日本語における社会的行為の産出と理解についての記述にどのように適用可能かを検討する。これらの作業を通して、社会的行為を産出し、理解するというのはいかなることかという根源的問いに対する洞察を深める。	西暦奇数年度開講。02DMW37と同一。オンライン(対面併用型)	
OBBE307	相互行為分析研究1B	2	1.0	1 - 3				社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」の理論的背景・視点・方法的意義等について、重要文献を中心に精読し、議論することによって正確な理解を深める。また、その理解を踏まえた上で、モデルとなる先行研究論文を具体的に検討することを通して、会話分析的研究として論文を作成する際のポイントについて学ぶ。さらに、受講生自身が執筆中の研究論文について、相互に検討・討議し、質の高い投稿論文に仕上げる技術を身につける。	西暦奇数年度開講。02DMW38と同一。オンライン(対面併用型)	
OBBE308	相互行為分析研究2A	2	1.0	1 - 3	春AB	金4	共同A604	高木 智世	社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」において重要な分析概念を提示した基本文献を精読し、議論することによって、会話分析の手法について正確な理解を深める。また、各論文における記述や主張が、実際の日本語における社会的行為の産出と理解についての記述にどのように適用可能かを検討する。これらの作業を通して、社会的行為を産出し、理解するというのはいかなることかという根源的問いに対する洞察を深める。「相互行為分析研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。02DMW39と同一。対面(オンライン併用型)
OBBE309	相互行為分析研究2B	2	1.0	1 - 3	秋AB	金4	人社A201	高木 智世	社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」の理論的背景・視点・方法的意義等について、重要文献を中心に精読し、議論することによって正確な理解を深める。また、その理解を踏まえた上で、モデルとなる先行研究論文を具体的に検討することを通して、会話分析的研究として論文を作成する際のポイントについて学ぶ。さらに、受講生自身が執筆中の研究論文について、相互に検討・討議し、質の高い投稿論文に仕上げる技術を身につける。「相互行為分析研究1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。02DMW40と同一。対面(オンライン併用型)
OBBE314	国際日本文科学1A	1	1.0	1 - 3	春AB	応談		海後 宗男, 平石典子, 白戸 健一郎, 江口 真規, 葛西 太一, 巖 錫仁, 石塚 修	国際日本文科学領域の様々な学術分野との関連において、学問領域の枠にとらわれない広い視点で探究し、学問を多角的に究明するための総合的な知の体系の構築を目指し、考究する力と感性を養成します。	対面(オンライン併用型)
OBBE315	国際日本文科学1B	1	1.0	1 - 3	秋AB	応談		海後 宗男, 平石典子, 白戸 健一郎, 江口 真規, 葛西 太一, 巖 錫仁, 石塚 修	国際日本文科学領域の様々な学術分野と様々な事象や概念を、学問領域の枠にとらわれない広い視点で探究し、学問を多角的に究明するための総合的な知の体系の構築を目指し、論理的かつ多角的に研究に関する授業を行います。	対面(オンライン併用型)
OBBE514	国際日本社会科学1A	2	1.0	1 - 3	春AB	応談		明石 純一, ダダバエフ ティムール, 潘 亮, 平沢 照雄, 柴田 政子, 川崎 レスリー タック, 大友 貴史, 崔 宰栄, 福住 多一, 宮坂 涉, 山本 英弘, 塩谷 哲史, 高橋 秀直, 佐藤 麻理絵, オルトラニ アンドレア	社会科学の諸分野の視点から、現代日本や国際社会の特質と諸課題を解明するための演習を行う。受講生各自が自分の研究課題をもち、授業における議論を通して、高度な研究力を身に着けることを目的とする。	対面(オンライン併用型)

OBBE515	国際日本社会科学1B	2	1.0	1 - 3	秋AB	応談	明石 純一, ダダバ エフ テイムール, 潘 亮, 平沢 照雄, 柴田 政子, 川崎 レスリー タック, 大友 貴史, 崔 宰 栄, 福住 多一, 宮 坂 涉, 山本 英弘, 塩谷 哲史, 高橋 秀直, 佐藤 麻理 絵, オルトラーニ アンドレア	社会科学の諸分野の視点から、現代日本や国際社会の特質と諸課題を説明するための演習を行う。受講生各自が自分の研究課題をもち、授業における議論を通して、独創性の高い学術的成果を生み出すことを目的とする。	対面(オンライン併用型)
OBBE800	日本語教育学プログラム演習1A	2	1.0	1 - 3				受講生は、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦偶数年度開講。 O2DMW33と同一。 2024年度開講せず。 対面(オンライン併用型)
OBBE801	日本語教育学プログラム演習1B	2	1.0	1 - 3				受講生は、「日本語教育学プログラム演習1A」をふまえ、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。発表内容は「日本語教育学プログラム演習1A」と異なるものとする。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦偶数年度開講。 O2DMW34と同一。 2024年度開講せず。 対面(オンライン併用型)
OBBE802	日本語教育学プログラム演習2A	2	1.0	1 - 3				受講生は、「日本語教育学プログラム演習1B」をふまえ、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。発表内容は「日本語教育学プログラム演習1A」「同1B」と異なるものとする。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦奇数年度開講。 O2DMW29と同一。 2024年度開講せず。 対面(オンライン併用型)
OBBE803	日本語教育学プログラム演習2B	2	1.0	1 - 3				受講生は、「日本語教育学プログラム演習2A」をふまえ、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。発表内容は「日本語教育学プログラム演習1A」「同1B」「同2A」と異なるものとする。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦奇数年度開講。 O2DMW30と同一。 2024年度開講せず。 対面(オンライン併用型)
OBBE814	言語と行動理論研究1A	2	1.0	1・2				日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話や、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、レジュメ作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。	西暦奇数年度開講。 O2DMW13と同一。 対面

OBBE815	言語と行動理論研究1B	2	1.0	1・2					日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話や、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、レジュメ作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。「言語と行動理論研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦奇数年度開講。 02DMW14と同一。 対面
OBBE816	言語と行動理論研究2A	2	1.0	1・2	春AB	金3		小野 正樹	日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話の流れや、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。「言語と行動理論研究1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 02DMW15と同一。 対面(オンライン併用型)
OBBE817	言語と行動理論研究2B	2	1.0	1・2	秋AB	金3		小野 正樹	日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話の流れや、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。「言語と行動理論研究1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 02DMW16と同一。 対面(オンライン併用型)
OBBE818	社会言語学研究1A	2	1.0	1・2	春AB	月2	9L101	ヴァンパーレン ルert	どの言語も社会や社会変化の影響を受けて変化し、さまざまなバリエーションが生まれる。一時的にのみ流行るバリエーションもあれば、定着するものもあり、それぞれを日本語教育に取り入れる必要性や困難について考える。受講者が順番に先行研究を踏まえて発表を行う。発表者には、博士論文完成のため、そして学会参加の際の質疑応答のため、徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成・発表技術を求め、受講者には批判的かつ建設的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。授業での使用言語(日本語・英語)は受講者と相談のうえで決める。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OBBE819	社会言語学研究1B	2	1.0	1・2	秋AB	月2	9L101	ヴァンパーレン ルert	どの言語も社会や社会変化の影響を受けて変化し、さまざまなバリエーションが生まれる。一時的にのみ流行るバリエーションもあれば、定着するものもあり、それぞれを日本語教育に取り入れる必要性や困難について考える。受講者が順番に先行研究を踏まえて発表を行う。発表者には、博士論文完成のため、そして学会参加の際の質疑応答のため、徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成・発表技術を求め、受講者には批判的かつ建設的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。授業での使用言語(日本語・英語)は受講者と相談のうえで決める。「社会言語学研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OBBE820	社会言語学研究2A	2	1.0	1・2					どの言語も社会や社会変化の影響を受けて変化し、さまざまなバリエーションが生まれる。一時的にのみ流行るバリエーションもあれば、定着するものもあり、それぞれを日本語教育に取り入れる必要性や困難について考える。受講者が順番に先行研究を踏まえて発表を行う。発表者には、博士論文完成のため、そして学会参加の際の質疑応答のため、徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成・発表技術を求め、受講者には批判的かつ建設的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。授業での使用言語(日本語・英語)は受講者と相談のうえで決める。「社会言語学研究1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型) 授業形態について、受講者と要相談

OBBE821	社会言語学研究2B	2	1.0	1・2						どの言語も社会や社会変化の影響を受けて変化し、さまざまなバリエーションが生まれる。一時的にのみ流行るバリエーションもあれば、定着するものもあり、それぞれを日本語教育に取り入れる必要性や困難について考える。受講者が順番に先行研究を踏まえて発表を行う。発表者には、博士論文完成のため、そして学会参加の際の質疑応答のため、徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成・発表技術を求め、受講者には批判的かつ建設的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。授業での使用言語(日本語・英語)は受講者と相談のうえで決める。「社会言語学研究1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型) 授業形態について、受講者と要相談
OBBE822	対人配慮行動理論研究1A	2	1.0	1・2	春AB	月5	9P104	関崎 博紀	欧米で提唱されてきた対人配慮の行動に関する理論、及び当該理論に対するその後の批判を講読する。参加者自身も批判的に検討を加えるだけでなく、各自が持つデータからどのような修正が可能を実証的に議論する。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)	
OBBE823	対人配慮行動理論研究1B	2	1.0	1・2	秋AB	月5	9P104	関崎 博紀	欧米で提唱されてきた対人配慮の行動に関する理論、及び当該理論に対するその後の批判を講読する。参加者自身も批判的に検討を加えるだけでなく、各自が持つデータからどのような修正が可能を実証的に議論する。「対人配慮行動理論研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)	
OBBE824	対人配慮行動理論研究2A	2	1.0	1・2					欧米で提唱されてきた対人配慮の行動に関する理論、及び当該理論に対するその後の批判を講読する。参加者自身も批判的に検討を加えるだけでなく、各自が持つデータからどのような修正が可能を実証的に議論する。「対人配慮行動理論研究1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦奇数年度開講。 対面	
OBBE825	対人配慮行動理論研究2B	2	1.0	1・2					欧米で提唱されてきた対人配慮の行動に関する理論、及び当該理論に対するその後の批判を講読する。参加者自身も批判的に検討を加えるだけでなく、各自が持つデータからどのような修正が可能を実証的に議論する。「対人配慮行動理論研究1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦奇数年度開講。 対面	
OBBE826	ことばと行為のマイクロ分析研究1A	2	1.0	1・2					会話分析の研究に対する批判の一つとして、順番取りや行為連鎖などとフォカスがあまりにもマイクロのせいで、その会話が置かれているいわゆる「コンテキスト」を見落とすがちだということである。会話分析では「コンテキスト」という概念がどのように捉えられるか、またコンテキストに関わる情報を記述しようとするエスノグラフィー的な研究手法とどのような関係を持つ可能性があるのかについて考えるために、会話分析とエスノグラフィーの相性について論じる研究や、会話分析とエスノグラフィーの手法を併用する「マイクロエスノグラフィー」の研究を取りあげる。授業では対象文献の内容を丁寧に確認し、ディスカッションをすることによって理解力を深める。また、受講生は各自でデータを集め、マイクロエスノグラフィー的な手法を用いて小規模な研究プロジェクトを遂行する。最後にその成果をレポートにまとめて提出する。	西暦奇数年度開講。 O2DMW21と同一。 対面(オンライン併用型) 授業形態について、受講者と要相談	
OBBE827	ことばと行為のマイクロ分析研究1B	2	1.0	1・2					エスノメソドロジー的な研究によって、第2言語学習に関する研究に対してどのような見解が提供できるかを検討していきながら、特にSacks(1972a, 1972b, 1979, 1995)によって提唱され、Watson(1978, 1997)やJanyusi(1984)、Hester & Eglin(1997)、Stokoe(2012)、Bushnell(2014)、Fitzgerald & Housley(2015)などによってさらに展開されてきている成員カテゴリー化分析の基本的な考え方や分析の技術を身につけることを狙う。	西暦奇数年度開講。 O2DMW22と同一。 対面(オンライン併用型) 授業形態について、受講者と要相談	
OBBE828	ことばと行為のマイクロ分析研究2A	2	1.0	1・2	春AB	月5	共同A604	ブッシュネル ケード コンラン	ことばと行為のマイクロ分析研究2Aと2Bでは、1Aと1Bなどで身につけた分析技術を駆使して、一学年を通して教員と受講生全員やその他の協力研究者、院生で分担して英語でオリジナルな研究を論文の形にまとめて共著で実際に投稿することを目標とする。2Aでは特に先行研究を吟味して自分たちで執筆する論文に使うデータや研究課題を検討しつつ毎週の発表で進捗状況を報告していく。	西暦偶数年度開講。 O2DMW23と同一。 対面(オンライン併用型)	
OBBE829	ことばと行為のマイクロ分析研究2B	2	1.0	1・2	秋AB	月5	共同A604	ブッシュネル ケード コンラン	ことばと行為2Bでは、2Aから進めてきている研究を継続しさらに発展させ、共同で一本の論文を英語で執筆する。最終的には適切な投稿先を決め実際に投稿してみることを目指す。	西暦偶数年度開講。 O2DMW24と同一。 対面(オンライン併用型)	

OBBE830	言語学習環境論1A	2	1.0	1・2						本科目は言語教育について「学習／教育環境」視点から議論することを目的とする。特に日本語教育における学習／教授リソースについて検討し、リソースの獲得、活用に関する理解を深める。授業方法としては、言語学習環境に関する文献を精読し、議論を行う。文献講読は履修者で分担を決め、講読した文献の内容について重要点と自分の意見を報告し、全体議論で理解を深める。さらに議論を通して、当該分野に関する博士論文の指導を行う。「言語学習環境論1B、2A、2B」とはそれぞれ異なるトピックスを扱うこととする。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OBBE831	言語学習環境論1B	2	1.0	1・2						本科目は言語教育について「学習／教育環境」視点から議論することを目的とする。特に日本語教育における学習／教授リソースについて検討し、リソースの獲得、活用に関する理解を深める。授業方法としては、言語学習環境に関する文献を精読し、議論を行う。文献講読は履修者で分担を決め、講読した文献の内容について重要点と自分の意見を報告し、全体議論で理解を深める。さらに議論を通して、当該分野に関する博士論文の指導を行う。「言語学習環境論1A、2A、2B」とはそれぞれ異なるトピックスを扱うこととする。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OBBE832	言語学習環境論2A	2	1.0	1・2	春AB	火4	共同 A604	伊藤 秀明		本科目は言語教育について「学習／教育環境」視点から議論することを目的とする。特に日本語教育における学習／教授リソースについて検討し、リソースの獲得、活用に関する理解を深める。授業方法としては、言語学習環境に関する文献を精読し、議論を行う。文献講読は履修者で分担を決め、講読した文献の内容について重要点と自分の意見を報告し、全体議論で理解を深める。さらに議論を通して、当該分野に関する博士論文の指導を行う。「言語学習環境論1A、1B、2B」とはそれぞれ異なるトピックスを扱うこととする。	西暦偶数年度開講。 対面
OBBE833	言語学習環境論2B	2	1.0	1・2	秋AB	火4		伊藤 秀明		本科目は言語教育について「学習／教育環境」視点から議論することを目的とする。特に日本語教育における学習／教授リソースについて検討し、リソースの獲得、活用に関する理解を深める。授業方法としては、言語学習環境に関する文献を精読し、議論を行う。文献講読は履修者で分担を決め、講読した文献の内容について重要点と自分の意見を報告し、全体議論で理解を深める。さらに議論を通して、当該分野に関する博士論文の指導を行う。「言語学習環境論1A、1B、2A」とはそれぞれ異なるトピックスを扱うこととする。	西暦偶数年度開講。 対面
OBBE990	プロジェクト演習3A	2	1.0	1	秋ABC	応談		国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)		受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の構成および執筆計画を発表する。主に4月入学者が受講する。	対面(オンライン併用型)
OBBE991	プロジェクト演習3B	2	1.0	1	春ABC	応談		国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)		受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の構成および執筆計画を発表する。主に10月入学者が受講する。	対面(オンライン併用型)
OBBE992	プロジェクト演習4A	2	1.0	2	秋ABC	応談		国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)		受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の中核となる諸章を発表する。主に4月入学者が受講する。	対面(オンライン併用型)
OBBE993	プロジェクト演習4B	2	1.0	2	春ABC	応談		国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)		受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の中核となる諸章を発表する。主に10月入学者が受講する。	対面(オンライン併用型)